

2022年度 つなぐBANK活動報告

相対的貧困から子どもたちを守る

そのビジョンのもと、つなぐBANKは2019年10月より活動を開始しました。
国連で採択されたSDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)が掲げる17の目標の内、「1. 貧困をなくそう」というものがあります。
一見、現在の日本では「周りには貧困はない」と言われる方も多いですが、実はそうではありません。貧困には2種類あり、衣食住など生活基盤が困窮している「絶対的貧困」と、社会全体の中で貧困状態(非正規雇用による低所得など)にある「相対的貧困」があります。日本は先進国の中で貧困率、相対的貧困の割合が高く、特にひとり親世帯の貧困率は非常に高いものがあります。例えば、スポーツをしたくても、ユニフォームなどのグッズを買えない。学習塾に通いたくても受講料を支払えない。学校など最低限の教育を受けてはいるけど、家庭の事情から以上は望めない状態、これが「相対的貧困」です。そして、この貧困は親から子へ連鎖します。私たちは、つなぐBANKを通じて、まず「これ以上は悪くならない状態」を作り出し家庭の安定を取り戻します。そして「子どもたちが将来のステップを安心して踏み出せる」ことを目的としています。

これまでの活動で、様々な企業様、個人様にご協力をいただき誠にありがとうございます。

活動の趣旨に共感いただき、少しずつ活動の輪が広がっているのを実感しております。つなぐBANKは、これからも当初のビジョンを忘れることなく、活動を続けて参ります。

一般社団法人 ひとり親家庭福祉会ながさき
理事長 福地 照子

運営委員メンバー

長崎県・長崎市・社会福祉法人カメラ・生活協同組合ララコープ・
長崎県青少年育成県民会議・弁護士法人 ALAW&GOODLOOP・長崎市歯科医師会・
一般社団法人 こども宅食応援団・特定非営利活動法人 Fine ネットワークながさき・
一般財団法人 未来基金ながさき

